

論 文 内 容 要 旨

* 整理番号	23	(ふりがな) 氏 名	りゅうごう ちゆき 流 郷 千 幸
修士論文題目	幼児の採血場面における看護援助と影響要因に関する研究		
<p>研究目的</p> <p>幼児は痛みを伴う処置に対する不安や恐怖といったストレスを抱きやすいため、ストレスの緩和を図り、幼児のもっている対処能力を最大限に引き出す援助が重要である。しかし、現在のところその具体的な方法が示されていない。そこで本研究では、痛みを伴う一般的な処置としての採血場面における援助に対する看護者の認識と実施状況を明らかにし、援助の影響要因を検討することを目的とした。</p> <p>方法</p> <p>1. 調査および分析方法</p> <p>採血場面への参加観察および看護者への面接から質問項目を作成し、調査票の信頼性と妥当性を検討し調査を実施した。その結果について因子分析し、援助内容を分類した。看護者の実施と認識について援助内容の分類ごとに合計得点を算出し、SPSSを使用してt検定を行い、認識得点と実施得点のPearsonの積率相関を算出した。また、個人要因、環境要因と援助内容の関係については、t検定、一元配置分散分析を行った。</p> <p>2. 対象</p> <p>S県内総合病院8施設の小児病棟に勤務する看護者171名。</p> <p>結果</p> <p>1. 援助内容</p> <p>5つの援助内容において、援助の重要性の認識、実施ともに最も得点が高いのは「安心を与える」であり、最も得点が高いのは「情報提供」であった。認識、実施とも高得点であった「安心を与える」以外の援助では実施得点と認識得点には有意な差があり、認識得点の方が高かった。また認識得点と実施得点にはかなり高い相関がみられた。</p> <p>2. 援助内容に影響する要因</p> <p>個人要因では、看護経験年数と小児看護経験年数、子どもの有無が「安心を与える」の認識に影響していた。環境要因では、ベッドに上がる抑制は「状況判断」の実施、抑制用具の使用は「主体的な参加を促す」「状況判断」の認識、穿刺の実施者が「スムーズに進める」の認識に影響していた。</p> <p>考察</p> <p>「安心を与える」以外の援助においては、実施得点より認識得点が高く、認識得点と実施得点にはかなり高い相関がみられたことから、看護援助の内的基準である援助の重要性の認識が低ければ実施は伴わないと考えられ、看護実践の向上のためには援助の重要性の認識を高める必要があることが示唆された。看護基礎教育や継続教育においては、認識、実施ともに得点の低い「情報提供」の重要性の認識を高める必要があると考えられた。また、看護者自身の都合を優先させてしまう状況や抑制用具の使用は「体的な参加を促す」「状況判断」の認識が低くなり援助に影響する要因と考えられた。</p> <p>総括</p> <p>本研究ではまず幼児の採血場面の援助内容に関する調査表を作成する必要がある。調査表の信頼性と妥当性を検討するために、再調査を行い、構成概念の内的整合性、妥当性についても検討した。その結果、ほぼ信頼性と妥当性は確保されたが、内的整合性がやや低いものもあり、今後さらに検討が必要である。調査については、対象の所属する病棟の看護体制などの影響もあると思われる、今後さまざまな看護状況による要因の検討が必要である。このような研究の限界はあるが、この研究結果から得られた幼児の採血場面における援助についての調査表および看護者の援助に対する認識、援助への影響要因に関する知見は、臨床の場や看護基礎教育、継続教育において活用できるものと思われる。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字以内)

2. *印の欄には記入しないこと。